

# 平成26年度 年度計画実績報告

高専番号:19 高専名:福井工業高等専門学校

	福井高専 平成26年度年度計画	福井高専 平成26年度実績報告
基本方針		<p>・これまでの本校の基本理念は、教育研究活動を育成すべき人材とその性格特性、持つべき知識と能力、ならびに地域社会に対する役割の観点から具体的な5項目から構成されていたため、本校存立の本義が分かり難かった。そこで、これまでの基本理念の底流にある根本的な考え方を踏襲し、教育研究と地域貢献に関する諸活動を継承すべく、その表現内容を集約、統合し、より幅広い包括的な一文に改正し、新しい基本理念とした。基本理念の改正にあわせて養成すべき人材像についても従前の内容を堅持しつつ、人間性、専門性、国際性、創造性の観点から具体的な4つの表現に改正した。</p> <p>・さらに、学習・教育目標についても学生・教職員が容易に認識し、具体的にイメージしやすいようにするために、これまで用いてきた表現は修正せず、本科及び専攻科の学習・教育目標の大項目における3番目と4番目の順番を入れ替えた。</p>
(1) 入学者の確保	<p>・福井県中学校長会会長を外部有識者の一人に迎え、高専制度の理解促進に努めるとともに利点と実績をアピールする。</p> <p>・これまでの実績を踏まえ、県下全中学校を訪問し、中学校教員の高専に対する理解度とプレゼンスの向上に努めるとともに、地域の中学高校連絡会に参加し、直接校長に対しPRIに努める。</p>	<p>・中部日本海5高専共同PRサイトを活用して最新の情報を掲載し、広報活動を行った。</p> <p>・コミュニティーFMや、季刊広報誌(10000部)を活用して中学生以外の層にもイメージの浸透を継続的に図った。</p> <p>・中学生に加えて小学生や一般人を対象とした公開講座・出前授業及び自治体主催の企画等に参画し、広い世代と直接触れ合う機会を増やし、科学教育啓発の取り組みと高専のブランド力向上に努めた。本年度の公開講座と出前授業の実施数(受講者数)はそれぞれ27件(267名)、21件(約1900名)であり、またそれらの満足度はそれぞれ97%、89%であった。</p> <p>・常設運用を行っている情報発信スタジオを利用し、オープンキャンパスや体育祭等の学校行事の様子を学生主体で社会に発信した。さらに、学生視点で学校PRビデオを作成し、自治体主催の科学イベントへの出展時に公開し、本校の情報発信に努めた。</p>
	<p>・年3回行っているオープンキャンパスの内容充実を図り、小学生や中学校低学年にもアピールできるように内容を精査して、高専へ興味を向けさせるように工夫する。</p> <p>・女子中学生向けに特化したパンフレットや広報誌などを刷新し、積極的にPRを行う。</p>	<p>・中学校の求めに応じ学校単位での説明会を19校で行なった。</p> <p>・女子学生の増加に向けた効果的なキャリア支援策を検討するとともに、女子就職先の開拓に積極的に取り組んだ。また、本年度1名の女性教員を採用し、女子中学生に対して理系分野への進路選択に際しての不安の軽減・払しょくを図った。</p> <p>・上記に加え年3回のオープンカレッジを開催し、本校のプレゼンス向上を図るとともに、この中に小学生にも開放する企画を設け、低学齢からの高専に対する関心の啓発に努めた。</p> <p>・9月に、女子入学志願者数増加を図るために、女子中学生と保護者を対象にした体験学習会&amp;懇談会を実施し、女子中学生32名、保護者22名が参加した。各学科等の特徴的なものづくり・デモ実験の体験後、現役女子学生との懇談会等を通して、本校の技術者教育と高専教育制度について理解を深めてもらった。事後アンケートによると参加女子中学生の満足度は100%であった。平成27年度推薦及び学力選抜試験には参加者32名の内、22名(出願率約69%)が出願し、18名が合格した(合格者/参加者=約56%)。</p> <p>・11月に文化的事業としてクラシックコンサートを開催し、本校学生の情操教育に資するとともに、一部の席を一般社会人にも開放し、本校の取り組みを積極的にアピールした。同コンサートに対する学生の満足度は79%、また一般社会人は96%であり、一般社会人からは”情操教育に力を入れていることに感動した”、”高専のイメージアップにつながり、大変良い企画だと感心した”といった好意的な意見が多く聞かれた。</p> <p>・平成26年度は高専への興味・関心を喚起するテーマを含め、27件の公開講座を開講した結果、中学3年生の実参加者数は58名であった。この内、平成27年度推薦及び学力選抜試験には41名(出願率約71%)が出願し、26名が合格した(合格者/参加者=約45%)。</p>
	<p>・各種広報資料は、中学生やその保護者に分かりやすく、利用価値の高いものに刷新する。</p> <p>・地域広報誌に本校の紹介ページを常設で設け、本校の教育活動の広範囲への周知を図る。</p>	<p>・コミュニティーFMや、季刊広報誌(10000部)を活用して中学生以外の層にもイメージの浸透を継続的に図った。</p> <p>・オープンカレッジなどの紹介や出前授業等に女子学生を積極的に活用し、女子が活躍するイメージの浸透を図った。</p> <p>・常設運用を行っている情報発信スタジオを利用し、オープンキャンパスや体育祭等の学校行事の様子を学生主体で社会に発信した。さらに、学生視点で学校PRビデオを作成し、自治体主催の科学イベントへの出展時に公開し、本校の情報発信に努めた。</p> <p>・オープンカレッジや出前授業などに女子学生を積極的に参加させ、女性のキャリアパスを提示しながらアピールを行った。</p>
	<p>・中学生に対して高専でのキャリア育成を説明する中で、入試説明会なども含め、アドミッションポリシーの理解に努める。</p> <p>・リーダーシップを発揮できる素養を持った学生など、幅広い人材を求めめるために推薦要件の運用に工夫を凝らす。</p>	<p>・中学校訪問時(延べ201校)や入試説明会においてアドミッションポリシーの説明とともに、調査書や面接等により入学意思やアドミッションポリシーに対する理解度を確認した。また、リーダーシップを発揮できる素養を持った学生など、幅広い人材を求めめるために推薦要件の運用に工夫を凝らし、募集を行った。</p>
	<p>・効果的な広報活動を継続的にを行い、中学校と連携を取りながら高い志と資質を持った入学志願者の確保に努める。また、学校訪問に併せ、女性のキャリアパスを積極的にアピールし、女子志願者の増加に努める。</p> <p>・就職・進学など進路の多様化、体験に基づく早期専門教育、授業料等の経済性などのメリットを有する高専制度の特徴を様々な機会をととしてアピールする。</p> <p>・”教育環境アンケート”等における意見や要望に基づき、女子学生の修学環境の向上を図る。</p>	<p>・入学合格者に対して事前課題を与え、緊張感がとぎれることなく本校の授業につなぐことができるような導入教育を行うとともに、中学校訪問時や入試説明会で女性のキャリアパスについても説明を行った。</p> <p>・新入生アンケートの分析や指導要録・成績の追跡調査を通して、入学生の質の変化の把握に努め、適切な指導に繋げられるようフィードバックを行った。</p> <p>・受験生にとってより魅力的な入試制度となるように、転科制度の在り方を高度化の議論の中で検討した。</p> <p>・女子学生や女性教職員からの意見要望に基づいて、トイレにサインの設置や照度の低い廊下等に人感センサーを有した照明器具を設けるなど、校内環境を整備した。</p>
	<p>・教務委員会の下に設けた教育体制検討専門部会において、昨年度定めた本校の高度化の基本方針に基づき、高度化移行時の教育体制等についての議論を継続して行い、本年度内に、高度化に関するカリキュラムを含めた基本設計の完了を目指す。</p> <p>・現在の専攻科における生産システム工学専攻と環境システム工学専攻の2専攻をまとめ、環境生産システム工学専攻の1専攻とすることを検討する。</p>	<p>・平成28年度からの高度化移行に際しての教育体制等の議論を行っており、融合複合型の3分野制を第3学年次から導入することを始め、全学科共通で実施するPBL科目の名称やその学習教育目標等を決定した。現在は、各分野の具体的な教育内容等について精査・確定の作業を行っている。</p> <p>・現在の専攻科における生産システム工学専攻と環境システム工学専攻の2専攻をまとめ、環境生産システム工学専攻の1専攻とすることの検討を開始した。しかしながら、大学評価・学位授与機構における学士の学位授与に係る特例の適用の認定を受けたため、これまでのJABEE認定を受けた融合・複合領域での教育プログラムとの整合性を図る必要が判明した。そのため、早急に結論を出さずに継続的に検討していくこととした。</p>
	<p>・昨年度定めた本校の高度化の基本方針に基づき、教務委員会の下に設けた教育体制検討専門部会において、高度化移行時の教育体制等についての議論を継続して行い、本年度中の高度化に関するカリキュラムを含めた基本設計の完了を目指す。</p> <p>・専攻科修士から社会のニーズの動向を把握するための方策を検討する。</p>	<p>・平成28年度からの高度化移行に際しての教育体制等の議論を行っており、融合複合型の3分野制を第3学年次から導入することを始め、全学科共通で実施するPBL科目の名称やその学習教育目標等を決定した。現在は、各分野の具体的な教育内容等について精査・確定の作業を行っている。</p> <p>・社会のニーズの動向を把握するため、平成27年5月2日に専攻科修士によるホームカミングデイを開催することとした。</p> <p>・教育の質の維持向上を図るため、卒業生・修了生及び彼らの就職・進学先を対象にアンケートを実施した。</p>

	福井高専 平成26年度実績報告												
<p style="text-align: center;"><b>福井高専 平成26年度年度計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・到達度試験結果を学生にフィードバックするとともに、学生自ら達成度評価シートを作成させ、指導に活用する。</li> <li>・TOEICやTOEFL受験を推奨するとともに、これらのスコアも単位化する方向で検討する。</li> <li>・低学年での英会話能力の育成を目指し、少人数教育を試験的に導入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・到達度試験結果を学生にフィードバックするとともに、学生自ら達成度評価シートを作成させ、指導に活用した。また、成績優秀者については表彰を行いモチベーションの確保を行った。</li> <li>・TOEICやTOEFLなど英語の外部評価を推奨するとともに、これらのスコアも単位化する方向で検討を行い、5年次の英語の単位認定を5年生195人中48人について行った。</li> <li>・低学年での英会話能力の育成を目指して少人数教育を導入し、その効果を検証している。また、4年次において英語の達成度試験の導入を検討している。</li> </ul> <p>各学科等では以下の取組みを行った。</p> <p>【機械工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選択科目を必修科目に変更するなど、モデルコアカリキュラムに整合するよう改正した新教育課程への移行を確実に進め、4年の工学演習の内容を改善するなど、基礎学力の定着を図った。また、基幹的専門科目に関する知識の習得状況を学生自ら把握・向上させるため、「機械設計技術者3級試験」の資格取得を奨励し、受験対策のための補講を9教科について3時間ずつ行った。</li> </ul> <p>【電気電子工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・達成度評価シートを活用して学習指導した結果、5年生の学生が平均点が94点、GPAポイントが3.8の成果を修めた。同学生は、学業だけでなく課外活動等にも積極的に取り組み、優秀学生として国立高等専門学校機構理事長表彰を受賞した。</li> </ul> <p>【電子情報工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・到達度試験結果を受けて数学で2名、物理で3名の学生が優秀賞を受賞した。達成度評価シートを各学年で記載し、フィードバックを行った。さらに成績優秀者として各学年よりGPAポイントが3.5以上の学生を年間優秀学生表彰候補者として推薦を行った。</li> <li>・英語関連の外部試験では、工業英検3級1名、英検2級1名、英検準2級4名が合格した。</li> </ul> <p>【物質工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学科の基軸である「コース制(材料工学・生物工学)教育カリキュラム」との整合性・関連性の観点において詳細に検討し、本年度新たに「平成28年度本校高度化再編・モデルコアカリキュラム対応学科教育課程表(案)」及びその移行措置「平成27年度学科教育課程表(改正案)」を作成した。</li> </ul> <p>【環境都市工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資格試験の受験を積極的に奨励した結果、技術士一次試験に8名(3年生4名、4年生2名、5年生2名)、測量士補試験に14名(3年生13名、4年生1名)、CAD利用技術者試験(2級)に2名(全て4年生)、コンクリート製品検定試験(中級)に12名(全て4年生)、同(初級)に39名(3年生24名、4年生15名)、防災士資格取得試験に16名(5年生13名、専攻科生3名)が合格した。</li> </ul> <p>【一般科目教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語外部試験の受験奨励を行い、TOEIC IPでは72名(前年度は92名)、TOEFL Juniorでは22名(前年度は27名)が学内受験した。また、工業英検では、3級において受験者49人中6名(前年度は83人中18名)が合格し、4級においては受験者8名全員(前年度は20人中19名)が合格した。STEP英検では、英検準1級において合格者1名(学外受験者)、英検2級において50人中合格者15人(うち1人は学外受験) (前年度は41人中合格者11名)、英検準2級において127人中合格者61名(前年度は109人中合格者56名)の実績により、昨年度に引き続き、英検優秀団体賞を受賞した。従来よりSTEP英検・工業英検の単位化は行っているが、年度末にTOEICの単位化に関する原案を作成した。低学年(1年生)のコミュニケーションの授業では、クラス人数を半分にし、2人の教員による少人数教育を実施し、定期試験等でその効果を検証し、一定の効果があることを確認した。</li> <li>・数学検定受験者数と合格者数は以下の通りである。</li> </ul> <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>受験者</td> <td>準1級</td> <td>1名(3年生)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>準2級</td> <td>4名(2年生3名、1年生1名)</td> </tr> <tr> <td>合格者</td> <td>準2級</td> <td>3名(2年生2名、1年生1名)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1次合格者</td> <td>準2級 1名(2年生1名)</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・到達度試験結果を学生にフィードバックするとともに、成績優秀者については表彰を行いモチベーションの確保を行った。到達度試験に向けての学力試験も行った。</li> <li>・語学や数学教育などで運用中のe-learningについてコンテンツを充実させ、在宅学習支援の教材開発を推進した。また、電子黒板とタブレット型端末を活用した効果的なグループ学習の在り方を検討した。</li> </ul> <p>【専攻科長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻科における海外インターンシップ先としてタイの日系企業に継続的に派遣できることとなった。本年度、1名の学生が約1か月研修を行った。</li> <li>・今年度も、北陸技術交流テクノフェアにおいて専攻科2年生全員が本校の技術シーズとして特別研究の内容をポスター発表した。</li> <li>・TOEIC受験を奨励しており、今年度は600点を超える学生2名を含む5名が500点を超えた。</li> <li>・技術者英語コミュニケーション演習で、これまで行ってきた外国人講師の前での特別研究の内容の英語による口頭発表に加えて英文要旨の作成を義務付けた。</li> <li>・今年度の専攻科「創造デザイン演習」では本校卒業生である映像制作会社代表からの提案課題であるボードゲーム作りを取り上げた。この内容には文化理解、システムづくりなどの製品開発につながる多岐に渡っており、学生からの評価も高いため来年度も継続して課題とすることとした。</li> </ul>	受験者	準1級	1名(3年生)		準2級	4名(2年生3名、1年生1名)	合格者	準2級	3名(2年生2名、1年生1名)		1次合格者	準2級 1名(2年生1名)
受験者	準1級	1名(3年生)											
	準2級	4名(2年生3名、1年生1名)											
合格者	準2級	3名(2年生2名、1年生1名)											
	1次合格者	準2級 1名(2年生1名)											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度に引き続き、全科目を前期最終週と後期最終週に分け、WEBによる授業アンケートを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期終了科目等の授業アンケートをWEB入力により8月に実施した。また、前年度の授業アンケートに対する教員側のコメントを4月中に収集し、9月に学生・教職員へ公開した。</li> <li>・通年・後期開講科目については5年生、専攻科1、2年生は3月にWEB入力により実施した。1～4年生については新年度4月に実施する。</li> </ul>												
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種コンテスト及び高専体育大会に積極的に参加するとともに、そのための環境整備に努める。</li> <li>・学生のものづくり志向を涵養するため「福井高専キャンパスプロジェクト」を企画、実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロボットコンテスト東海北陸地区大会(10月)、プログラミングコンテスト(10月)、デザインコンペティション(11月)に参加した。その他、第7回東海北陸地区高等専門学校英語スピーチコンテスト(11月)、2014Ene-1GP SUZUKA KV-40チャレンジ全国大会(8月)、第10回全日本学生室内飛行ロボットコンテスト(9月)に参加した。ロボコンでは、アイデア賞、企業賞を獲得した。プロコンにおいても企業賞を獲得した。</li> <li>・東海・北陸地区高専を対象とする生産技術コンテスト(12月)、G空間×ICT北陸まちづくりトライアルコンクール(12月)、第4回小水力発電アイデアコンテスト(3月)に参加した。G空間×ICT北陸まちづくりトライアルコンクールにおいて安心安全社会賞を受賞した。</li> <li>・高専全国大会へは、野球、卓球、サッカー、ソフトテニス、剣道、柔道、水泳の7種目に出場し、卓球女子シングルス、ダブルスともに3位であった。</li> <li>・「福井高専キャンパスプロジェクト」の企画を募集し、5件についてプロジェクトを認めた。これらのプロジェクトに参画した学生は、活動成果をもとに12月に報告会を行った。</li> </ul>												
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のボランティア活動などの社会奉仕体験活動への周知、支援を行う。</li> <li>・新入生オリエンテーション合宿研修の中で、自然体験活動を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に、新入生オリエンテーション合宿研修の中で、福井県立奥越高原青少年自然の家において、自然体験活動としてスコアオリエンテーリングを実施した。</li> <li>・5月に寮生会を中心とした30名の学生(寮生)が、地元の河川敷の清掃活動に参加した。</li> <li>・9月に鯖江市立神明保育所において8名の学生が保育ボランティアに参加した。</li> <li>・10月に105名の学生が参加し、クリーン大作戦を行った。本年度は、本校から鯖江市内と越前市内の通学路を中心に商店街や住宅地、河川敷、公園などを通る4コースに分かれてゴミ拾いを行った。</li> <li>・9件の出前授業において、延べ84名の学生がスタッフとして出前授業を支援し、延べ1107名の小中学生とその保護者と交流をした。また、公開講座18講座において、延べ39名の学生がスタッフとして支援し、延べ197名の小中学生とその保護者と交流した。</li> </ul>												

(2) 教育課程の編成等

	福井高専 平成26年度年度計画	福井高専 平成26年度実績報告
(3) 優れた教員の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業などでの豊富な実務経験者、技術士等の国家資格を有する者、および他の教育機関での経験を有する者の採用に向けて努力する。</li> <li>教員選考時には面接に加えて模擬授業等も課し、高専教員としての適格性を見極める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員公募に際しては豊富な実務経験、高度な実務能力と優れた教育力を有するものを広く募集し、企業の第一線で活躍している有能な技術者等を含む4名を内定した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「高専・技科大間教員交流制度」を引き続き利用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「高専・技科大間教員交流制度」により、2名の教員を石川高専と富山高専に派遣した。</li> <li>5月に、昨年度の「高専・技科大間教員交流制度」により明石高専に派遣した教員による帰校報告会を全教員対象に実施した。帰校報告会の実施を通して、同交流制度の積極的な活用を促した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊富な経験や高度な実務能力を持ち、優れた教育力を有する者を採用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員公募に際しては豊富な実務経験、高度な実務能力と優れた教育力を有するものを広く募集し、企業の第一線で活躍している有能な技術者等を含む4名を内定した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>男女共同参画の趣旨を踏まえ、女性教員の積極的な採用に向けて努力する。</li> <li>女性教職員の就業環境を改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度行ったすべての教員公募に、『本公募では、教育・研究業績等の評価において同等と認められた場合には、女性を積極的に採用します。』と明記し、1名の女性教員の採用を内定した。</li> <li>女子学生や女性教職員からの意見要望に基づいて、トイレにサインの設置や照度の低い廊下等に人感センサーを有した照明器具を設け、校内環境を整備した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学間連携事業(フレックス)等のFD学習研修会へ教職員を派遣する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月に校長表彰や課外活動などで顕著な成果をあげている教職員による講演会を開催し、教職員76名が参加した。</li> <li>8月の高専教育フォーラムに参加を促し、12名の教職員が事例報告を、また、他高専の優れた事例の収集を行い、教育活動の活性化につなげた。</li> <li>9月に開催された大学間連携事業(フレックス)主催のFD合宿研修会へ4名の教員が参加した。</li> <li>10月に開催された大学間連携事業(フレックス)主催のシンポジウムへ3名の教員が参加した。</li> <li>3月に開催された大学間連携事業(フレックス)主催のティーチングポートフォリオ作製ワークショップへメンター(助言者)1名を派遣した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の勤務意欲の高揚及び本校の活性化を図ることを目的に、職務に精励し、その功績が顕著な者を対象に、理事長表彰対象者として推薦する。また、年度末には校長表彰も行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の勤務意欲の高揚及び本校の活性化を図ることを目的に、職務に精励し、その功績が顕著な教員2名を理事長表彰対象者として推薦した。</li> <li>年度末に、有益な発明・発見・研究等を行い業績をあげた者1名と、管理運営に尽力し、実績をあげた者1名、の計2名を校長表彰した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>教育研究の発展と活性化のために、在外と内地の研究員制度の利用を奨励する。</li> <li>「高専・技科大間教員交流制度」により教員を派遣する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度、「高専・技科大間教員交流制度」により、2名の教員を石川高専と富山高専に派遣した。</li> <li>5月に、昨年度の「高専・技科大間教員交流制度」により明石高専に派遣した教員による帰校報告会を全教員対象に実施した。帰校報告会の実施を通して、同交流制度の積極的な活用を促した。</li> <li>在外研修のために本年度1年間、教員1名をドイツの大学に派遣した。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>「モデルコアカリキュラム(試案)」を踏まえた現行カリキュラムを、高度化に向けて修正していく。</li> <li>シラバスの記載方法の標準化に関して検討を行う。</li> <li>ICT活用教材の開発に積極的に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT活用教材の開発に積極的に取り組み、導入可能なところから試験運用を行い効果を確認するとともに、高専機構、長岡技術科学大学のアドバンスコース及び福井県の大学連携事業でのe-learningコンテンツを教材として利用する試みを開始した。</li> <li>「モデルコアカリキュラム(試案)」を踏まえ、現行カリキュラムを高度化に向けて修正を行うとともに、シラバスの記載方法の標準化に関して検討を開始した。</li> <li>機構のCBT活用立ち上げプロジェクトに参画し、知見とノウハウの収集を行った。</li> <li>ALの実効ある推進を図るために、創造教育開発センターの中にWGを立ち上げて、FDの一環としてよりよい授業の開発に努める。</li> </ul> <p>各学科等では以下の取組みを行った。</p> <p>【機械工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>モデルコアカリキュラムに対応した新教育課程への移行を開始した。同時にメカトロニクス関連教育を見直し、メカトロニクス実習の新設や知能機械演習のPDCAサイクル型授業への改善など、創成科目を充実した。機械工作実習では、3年後期にバイスをチーム毎に加工し組み立てる総合実習の導入を開始し、個々の学生のものづくりに対する主体性を育成した。設計製図では5年でCAD/CAEを1年早く導入し、実験では3次元測定機など高度な測定機を用いた実験テーマを新設した。</li> </ul> <p>【電気電子工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>モデルコアカリキュラムの問題点を洗い出しを行った結果、実験内容(過渡現象)の修正が必要であることが分かり、そのことを来年度のシラバスに記載して対応した。</li> <li>3年生の情報処理Ⅱにおいてサッカーロボットを設計・製作し、7月に機械工学科3年生と学科対抗のサッカーロボット大会を行った。これらを通じて学生の学科への帰属意識、専門科目へのモチベーション、エンジニアリングデザイン能力を涵養した。</li> <li>電子創造工学においてサイボウズLiveに教材、データ、履歴を掲載し、5人の担当者間での情報共有を行った。これにより、教育効果の向上とともに担当者の変更にかかわらず教育水準の維持が図られた。</li> </ul> <p>【電子情報工学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入試対策として、学科HPを更新し学科カリキュラムや学科設備などの情報を追加した。</li> <li>高度化を踏まえた学科カリキュラムとして、早期でのネットワーク技術の基本的理解の必要性から、学際コースの内容も踏まえ3年情報ネットワーク概論を平成28年度から開講することとした。</li> <li>学際コースについては、情報制御系のカリキュラムとして、3年情報処理基礎、4年情報通信基礎とエネルギー工学概論の開講を決定し、カリキュラム詳細について今後検討を進めることとなった。</li> </ul>	



	福井高専 平成26年度年度計画	福井高専 平成26年度実績報告
	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成31年度に予定している認証評価受審に向けて各種関係資料等の整理や準備を継続して行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>JABEE継続審査(平成27年度受審予定)や機関別認証評価の受審(平成31年度受審予定)等に向けた教育体制の点検を行い、教育の質の維持向上を図るため3年ごとの外部評価(就職・進学先アンケート並びに卒業生・修了生アンケート)を実施した。</li> <li>昨年度までは自己点検・評価報告書をその年度末の2月に発刊していたが、今年度からは次年度の6月を発刊予定とし、今年度の3月末までの全ての事業内容を含めた形で自己点検・評価書の作成を行うこととした。同報告書は、平成27年7月頃に予定している外部有識者会議の資料の一つとなる。</li> <li>勉学意欲旺盛な学生を専攻科に迎え入れるために、平成27年度専攻科生選抜試験から推薦選抜の評価基準を改め、19名の志願者全員が合格した。また、平成28年度専攻科入試より推薦による選抜をより重視するようするため、学力選抜による入学試験を年1回とすることとした。</li> <li>専攻科への門戸を広げるために、平成28年度専攻科入学試験の学力検査における選抜の出願資格に、高等専門学校卒業と同等以上の学力がある者を加えることとした。</li> <li>今年度の専攻科「創造デザイン演習」では本校卒業生である映像制作会社代表からの提案課題であるボードゲーム作りを取り上げた。この内容には文化理解、システムづくりなどの製品開発につながる多岐に渡っており、学生からの評価も高いため来年度も継続して課題とすることとした。</li> <li>専攻科における海外インターンシップ先としてタイの日系企業に継続的に派遣できることとなった。本年度も1名の学生が約1か月研修を行った。</li> <li>大学評価・学位授与機構が行った学士の学位授与に係る特例認定の申請において、申請を行ったすべての専攻の区分で認定を受けた。なお、本校では学修総まとめ科目として特別研究だけではなく、「技術者総合ゼミナール」を立ち上げることとし、この科目の中で4年間の学修を振り返る評価を行うこととしている。</li> <li>専攻科生の学会での発表を奨励しており、今年度は3名の学生が表彰を受けた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>本科4年生及び専攻科1年生の学生全員に対し、インターンシップの推進と充実を図る。</li> <li>専攻科においては、海外インターンシップを積極的に勧める。</li> <li>共同教育コーディネーターと地域支援コーディネーターを任用し、産官学連携活動と連動したインターンシップのモデルを構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月に4年と専攻科1年生を対象にしたインターンシップ事前研修を実施し、全員に対して県内外及び海外の企業・機関でインターンシップを例年通り実施した。アンケートによると、学生の92%が、満足もしくはおおそ満足と答えている。</li> <li>企業技術者等活用プログラム「地域社会のテクノサポート拠点化推進事業」で4名のコーディネーターを任用した。共同教育コーディネーターは、本校の卒業生や退職教職員と面談し、共同教育や共同研究に結びつける活動を行った。また、地域連携コーディネーターは地域の自治体や商工会議所を、産学連携コーディネーターは地域の企業を訪問し、本校との連携に関する情報収集と支援依頼を行った。そして、知的財産コーディネーターは、教員の研究成果による知的財産創出のサポートを行った。</li> <li>交流覚書を交わしているタイのプリンスオブソクラ大学に今年度も男子学生1名を1ヶ月間インターンシップとして派遣した。</li> <li>福井県を拠点として国際的な事業展開を行っている企業のタイにおける拠点(子会社)において、本校専攻科生(男子1名)を1ヶ月間インターンシップに派遣した。</li> <li>今年度の専攻科「創造デザイン演習」では本校卒業生である映像制作会社代表からの提案課題であるボードゲーム作りを取り上げた。この内容には文化理解、システムづくりなどの製品開発につながる多岐に渡っており、学生からの評価も高いため来年度も継続して課題とすることとした。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業で活躍している卒業生の人材データベースを整備し、共同教育や共同研究に結びつける手法を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業技術者等活用プログラム「地域社会のテクノサポート拠点化推進事業」で共同教育コーディネーターを1名任用し、本校の卒業生や退職教職員と面談し、共同教育や共同研究に結びつける活動を行った。その結果、3学年のホームルームの時間を利用し、2回にわたって企業退職OBによるキャリア支援講演会を開催し、延べ約260名の学生が聴講した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>長岡技術科学大学のアドバンスコースを積極的に活用し、広域視野を持った人材育成に取り組むとともに、海外派遣を積極的に推奨することで、体験を通じた国際感覚を磨く機会を提供する。</li> <li>三機関連携事業に参加し、またISTSやISATEIに対して複数の学生・教員を積極的に派遣することで、教育研究の広域相互交流を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長岡技術科学大学のアドバンスコースに9名を、また三機関連携事業に学生と教員を派遣して広い視野を持った人材育成に取り組むとともに、東南アジアに2名の学生を派遣し海外派遣を積極的に推奨することで、体験を通じた国際感覚を磨く機会を提供した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>語学や数学教育などで運用中のe-learningについてコンテンツを充実させ、在宅学習支援の教材開発を進める。また、昨年度導入された電子黒板とタブレット型端末を活用した効果的なグループ学習の在り方を検討する。</li> <li>長岡技術科学大学のアドバンスコースを実施する上で導入したTV会議システムを利用する授業の充実と向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>語学や数学教育などで運用中のe-learningについてコンテンツを充実させた。また、電子黒板とタブレット型端末を活用した効果的なグループ学習の在り方を検討し、その一部の成果を低学年に導入した。</li> <li>TV会議システムを利用した長岡技術科学大学教員による遠隔授業を、5年生開講の2つの科目に導入し、合わせて50名の受講者を得るとともに授業を収録し、他高専への配信を試みた。</li> <li>専門科目での在宅学習支援の一環として、教育用システム更新にあたり、CADソフト(SolidWorks)では自宅自習用ライセンスが利用できるものを導入した。</li> <li>語学や数学教育などで運用中のe-learningについてコンテンツを充実させ、在宅学習支援の教材開発を推進した。また、電子黒板とタブレット型端末を活用した効果的なグループ学習の在り方を検討した。</li> <li>英語科では、学習管理システムMoodleを用いて、学生への連絡、授業資料の配布、英作文の課題提出および作品の共有を行った。また、タブレット型端末を用いて教材やスライドをクラス全体に提示し、授業の効率化を図ったり、ICレコーダーを用いて英語でのスピーキングの練習を行ったりした。また、教科書で使用される単語・熟語や重要構文の習得のための小テストを作成して、授業中だけでなく家庭学習として、あるいは長期休暇中にも学習させることで一定の効果があげることができた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生に対してきめ細やかな対応をするため、メンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援の充実を図る。</li> <li>学生相談室においてメンタルヘルス関連のアンケートを実施し、学生の状況把握に努める。</li> <li>校内外におけるメンタルヘルス関係の研修会等へ関係教職員を積極的に派遣する。</li> <li>精神科医などと連携し、学生相談の体制の充実を図る。</li> <li>卓越した学生に対する授業料免除を継続して実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生相談室において学生のメンタルヘルス管理を十分に行うため、専攻科生も含めた全学生対象に、ハイパーQ-Uテスト(6月)、高専生活に関するアンケート(10月)を実施し、学生の状況把握に努めた。</li> <li>メンタルヘルスの充実のために、精神科医が今年度は9回来校し、相談業務を行った。</li> <li>4月に実施した新入生オリエンテーションにおいて、1年生の全学生を対象に、学生主事及び学生相談室長が高専の学生としての心構え、学校生活の過ごし方などについて説明した。</li> <li>年度当初に、1年生の全クラスをカウンセラーが訪問し、カウンセリング体制についての紹介を行った。</li> <li>8月に教職員対象のメンタルヘルス研修会として、厚生病院ストレスケアセンターの医師による講演会『思春期と精神疾患 自殺・自傷も含めて』を開催し、68名の教職員が参加した。</li> <li>9月に教員を対象にして、Q-Uテストの結果の活用研修会(30名参加)を開催し、講師によるクラスアセスメントも行っていただき、クラス経営の一助とした。</li> <li>学生相談室員のスキルアップのために、県内外15の研修会に延べ18名が参加した。</li> <li>卓越した学生に対する授業料免除を継続して実施し、本年度は4名の学生を卓越した学生とした。</li> <li>特別支援室を継続的に運用し、身障者1名について支援を行った。例えば、10月に実施された研修旅行には、看護師を付き添わせ安全性の確保に努めた。</li> <li>各系の専攻科委員及び特別研究指導教員が専攻科生の生活状況を把握するための面接等を実施し、充実した学習が行えるよう相談に応じている。</li> </ul>
<p>(5)</p> <p>学生支援・生</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠隔地受検者の増加を踏まえて入寮希望者数の将来予想を行い、必要となる居住棟と食堂・浴室・アメニティスペースなど関連施設について検討を開始する。</li> <li>寄宿舎の老朽化等の実状把握を行っており、早急に改善すべき施設について優先順位の再検討を行う。</li> <li>女子寮棟は希望者の増加に応え得る居室の確保が出来なくなっており、その対応策を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生寮の施設整備の充実を図ることを目的として、学生の生活状況等を把握し、改修の際の基礎資料とするため、全ての学生を対象にアンケート調査を10月末に実施した。その結果現在の寮生以外に50名程度の潜在的入寮希望者が存在することが判明した。</li> <li>平成26年度予算で行なう施設の改修・改善計画を6月に策定し、(1)西寮の湿気対策、(2)学寮浴室ポンプの濾過器の清掃、(3)北寮の内部の居室増対応改修、(4)南寮北面の漏水改修、(5)学寮厨房等床塗装補修、(6)学寮食品庫壁塗装補修、(7)東寮周辺会所折鉄蓋破損の交換、(8)学寮駐輪スペースの破損壁ブロック撤去、(9)学寮食堂の排水掃除口の改修を挙げた。修繕時期と予算の関係から、(1)(2)(4)(6)(7)を9月までに、そして(9)を3月末までにそれぞれ実施し、改善した。</li> <li>女子寮はH27年度の新入寮生募集の段階で合計51名の入寮許可を行なった。次年度の短期留学生の受け入れを4名分確保する必要があるため、1階のPC室、相談室の2部屋を居室に転用した。その結果留学生用6居室を含めて定員を52名から55名に3名分増加した。</li> </ul>

	福井高専 平成26年度年度計画	福井高専 平成26年度実績報告
生活支援等	・独立行政法人日本学生支援機構を始め、各種奨学金制度などの学生支援に係る情報を学生に提供する。	・日本学生支援機構奨学生は52名、その他奨学生は17名であった。また、入学科徴収猶予許可者は3名、授業料免除対象者は、全額免除延べ36名、半額免除延べ9名、卓越した学生全額免除は4名であった。
	・企業情報、就職・進学情報などの学生への提供体制を充実する。 ・先輩講座の講師の登録制度を設け、卒業生に登録を呼びかける。	・大学・大学院合同説明会を10月に実施し、12大学から説明を受けた。参加学生数は本科生82名、専攻科生23名であった。 ・卒業生を招請しての先輩講座は、5月(3年電気系80名対象)、6月(3年生200名対象)に実施したほか、特に4年生を中心に、2月までに9つの報告があった。これにより、学生は、実社会において必要な能力について具体的に学ぶ機会が増えた。また、進路の決定した5学年、専攻科学生の経験を本科2年生に伝える先輩フォーラムは、11月に各学科で実施した。2年生に対するアンケートでは、100%の学生が、大いに参考または参考になったと回答した。 ・女子学生のキャリア教育のため、上記の先輩フォーラムにおいては、各学科3ないし5名の先輩講師のうち、原則1名以上は女子学生として実施し、20名の講師のうち、実際5名の女子学生が講師となった。 ・先輩講座に関しては、さらに、講師の登録制度を開始し、現在16名(うち女性5名)の卒業生の登録があった。また、女性の登録講師を中心に、SNS等を利用した女子の進路相談体制を作ることの検討を始めた。 ・専攻科1年を対象にして、本科4年生とともに、7月、10月、3月に就職対策講座を実施し、インターンシップ対策および企業研究の仕方、合同企業説明会対策、就活直前対策について、外部講師から講義を受けた。 ・3月キャリア教育セミナー(合同企業説明会)を開催し、過去最高の149の企業・機関が参加し、学生は多くの企業等の情報に触れることができた。 ・現在の求人票閲覧システムと並行して大学間連携共同教育推進事業で開発された「進路支援システム」の試験的導入を決め、準備を始めた。これにより、学生の進学を含めた進路関係情報の提供体制が充実すると考えられる。
	・将来構想(高度化)に対応できる新たなキャンパスマスタープランを策定する。	・施設整備委員会の下に、キャンパスマスタープラン策定専門部会を3回開催し、将来構想(高度化)に対応できる総合教育研究棟(仮称)の整備計画をまとめた。 ・施設整備委員会において、体育館、プール、福利施設等も含め、学内の施設・設備の老朽化した箇所を適宜調査のうえ検討し、必要に応じ計画的に営繕補修を実施した。
	・本校の主要な施設の耐震化は完了している。	・本校の主要な施設の耐震化は完了した。
	・平成25年8月に策定した「PCB含有の可能性のある廃電気機器の紛失を受けての再発防止計画」に基づき、PCB廃棄物の適正な管理を実施する。	・ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法第8条の規定に基づき、毎年度、ポリ塩化ビフェニル廃棄物の保管及び処分状況に関し、福井県知事に届け出るとともに、PCB廃棄物を適正に保管管理している。
(6) 教育環境の整備・活用	・適切な安全教育と安全対策を行うための必要な取組みを行う。 ・学生及び全教職員に対する感染症対策に取組み、健康の維持・管理を行う。	・実験・実習等において初回における安全教育をシラバスに明記するとともに、授業時間毎にその時間内での適切な安全教育をするように徹底した。 ・安全必携を新入生全員に配付した。 ・月1度の定期巡視を行い、危険箇所の把握と指摘、状況改善を継続的に行った。 ・新任教職員に対する麻疹・風疹の予防接種を行うとともに、全教職員に補助を行ったうえで、流行期前のインフルエンザワクチン接種を奨励した。 ・救命救急法の講習会を年3回実施し、学生及び教職員141名が緊急対応の研修を実施した。 ・技術職員が担当している実験室等の安全衛生の向上を図るために、技術職員が中心となってヒアリ・ハット集を作成し、随時更新した。
	・女性教員等に対して、高専機構による研究活動を支援する研究支援員配置事業の周知を行い、同事業の促進を図る。 ・女性教職員の就業環境を改善し、ワークライフバランスを推進する。	・女性教員1名が高専機構による研究活動を支援する研究支援員配置事業を利用して教育研究活動を展開した。 ・8月に開催された全国高専教育フォーラムの高専女性教員のキャリア形成支援ワークショップに女性教員1名をパネラーとして派遣し、ワークライフバランスの参考例を紹介した。 ・12月に開催された高専機構主催の平成26年度女性研究者研究交流会に2名の女性教員を派遣し、研究交流の促進と研究者としての資質の向上を目指した。 ・3月に開催された高専機構男女共同参画推進協議会に女性教員を派遣し、他校における取組み事例や情報を収集するとともに、本校における男女共同参画の充実を図った。
	・全国高専テクノフォーラムにおいて本校の産官学連携活動や共同研究の成果を発表する。	・8月に開催された全国高専テクノフォーラムに5名の教員を派遣し、5件の共同研究等の成果を発表した。 ・平成26年度の科学研究費補助金の採択件数は17件(新規:8件、継続:9件、総額:20,550千円)となった。過去4年間の傾向として採択件数は増加している。27年度科学研究費補助金の獲得に向けて、新採用の教員1名を日本学術振興会主催の科学研究費助成事業に関する研修会へ派遣した。また、平成26年9月に、機構主催の科研費取得のための遠隔ビデオ講演会(講演講師:富山高専袋布先生、奈良高専上田先生、明石高専仁木先生、熊本高専清田先生)を実施し、約40名の教員が受講した。さらに、学内向けウェブサイトに応募関連情報を掲載するなど科学研究補助金申請率向上に努めた。その結果、今年度の申請率(含技術職員)は昨年度の62%から70%に向上した。
2 研究や社会連携に関する事項	・技術マッチングイベントに出展し、産業界や地方公共団体との新たな共同研究・受託研究の受入れを促進する。	・7月に本校で開催した福井高専オープンラボに地域の企業24社から37名の技術者が参加し、本校の分析装置や試験機を用いた共同研究や受託研究の促進を図った。 ・10月に開催されたTechBizExpoに2名の教員を派遣し1件の研究シーズを、また、北陸技術交流テクノフェアに20件の研究成果を発表した。さらに、12月にはエコプロダクツに2名の教員を派遣し、1件の共同研究の成果の発表を、本校テクノセンター主催のジョイントフォーラムでは9件の研究シーズを発表した。3月にはふくい知財フォーラムを本校テクノセンターが共催し、教員の知的財産に関する発表を2件行った。さらに、3月にはアカデミア会員企業見学会を開催し、2社の見学会、産官学交流会、情報交換会に延べ40名が参加し、産業界との連携を図った。
	・知的財産コーディネーターを任用し、卒業研究や特別研究から職務発明に結びつける仕組みを検討する。	・企業技術者等活用プログラム「地域社会のテクノサポート拠点化推進事業」で知的財産コーディネーターを1名任用し、教員の研究成果の発明性について調査を依頼した。また、科学研究費補助金の申請内容における発明性の調査も依頼した。 ・8月には専攻科1年生を対象に弁理士による知的財産に関する講習会を実施し、12月には本科1年生と5年生を対象に同講習会を実施した。
	・活動情報誌JOINT、ニュースレター、ホームページ等を利用し、地域社会に地域連携テクノセンターの活動と教職員の研究シーズを紹介する。	・6月にテクノセンターの活動紹介誌兼教員研究シーズ集「JOINT」とニュースレターを発行し、地域社会に配布した。また、同冊子やテクノセンターの活動予定と報告は随時、ホームページで紹介している。 ・7月に地元企業関係者を対象としたオープンラボを開催し、本校所有の最新測定装置等60件の紹介冊子(福井高専ラボガイド)を配布し、共同研究等の推進を図った。

	福井高専 平成26年度年度計画	福井高専 平成26年度実績報告
	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで実施してきた公開講座の内容を精査して、科学教育の啓発と高専のブランド力向上に努める。</li> <li>地元自治体並びに小中学校や公民館等と連携し、ものづくりやデモ実験を中心とした出前授業や科学イベントにも積極的に参画し、理科教育支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学生に加えて小学生や一般人を対象とした公開講座・出前授業及び自治体主催の企画等に参画し、広い世代と直接触れ合う機会を増やし、科学教育啓発の取り組みと高専のブランド力向上に努めてきた。本年度の公開講座と出前授業の実施数(受講者数)はそれぞれ27件(267名)、21件(約1900名)であり、またそれらの満足度はそれぞれ97%、89%であった。</li> </ul>
3 国際交流等に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生や教員の海外交流を促進するため、多様な制度を利用して海外の教育機関との国際交流やインターンシップを推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月初旬から2週間、プリンスオブソクラ大学工学部(タイ)から2名の短期留学生を受け入れた。また、同大学に本校の専攻科生1名を8月中旬からの1ヶ月間、短期留学させた。</li> <li>JICA北陸が開催した教師海外派遣事業「技術系グローバル人材育成」に1名の教員を派遣した。</li> <li>福井県大学連携リーグが主催して開催した研修事業「ふくい企業学」(本校教員が企画に参加)に12名の学生を参加させ、企業に求められるグローバル人材像に対する合宿研修を行った。</li> <li>6月中旬に、マレーシア共和国のマラ公社から15名のグループが本校を訪れた。うち14名は同国学生で、本校教員や本校に在籍するマレーシアからの留学生達との間で本校の教育システムや育成すべき人物像などについて活発な討論を行った。</li> <li>福井県を拠点として国際的に事業展開を行っている企業のタイにおける拠点(子会社)において、本校専攻科生(男子1名)を1ヶ月間インターンシップに派遣した。</li> <li>1月中旬に、機構本部が国際交流協定を結んでいる香港VTC/IVEから4名の短期留学生(男子)を受け入れて1週間研修させるとともに、本校学生との交流も積極的に行った。</li> <li>3月中旬に、本校が国際交流協定を結んでいるオーストラリアのフェデレーション大学に20名の学生を引率し2週間研修させ、現地で同大学の学生との交流も行った。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元企業のタイにおける事業拠点である会社に、学生を派遣して研修させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福井県を拠点として国際的に事業展開を行っている企業のタイにおける拠点(子会社)において、本校専攻科生(男子1名)を1ヶ月間インターンシップに派遣した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>資質の高い外国人私費留学生の受入れに取組む。</li> <li>交流協定を締結している国外の教育機関からの留学生を受入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月初旬から2週間、本校が交流覚書を交わしているプリンスオブソクラ大学工学部(タイ)から2名の短期留学生(男子)を受け入れて研修させるとともに、本校学生との交流も積極的に行った。</li> <li>1月中旬に、機構本部が国際交流協定を結んでいる香港VTC/IVEから4名の短期留学生(男子)を受け入れて1週間研修させるとともに、本校学生との交流も積極的に行った。</li> <li>3月中旬に、本校が国際交流協定を結んでいるオーストラリアのフェデレーション大学に20名の学生を派遣し、現地で2週間の研修を行った。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生間交流を通して、日本文化・歴史等に触れる機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月初旬から2週間本校が受け入れたプリンスオブソクラ大学工学部の学生達が生活の場である寮において、日本人学生達との交流の中で日本の慣習を学ばせ、歴史文化の理解に努めた。</li> <li>5月の学寮祭において留学生交流会を開催し、留学生の出身国の紹介と自国の手料理(マレーシア料理とタイ料理)の試食を通して異文化・風習の相互理解を図った。同交流会には、60名程度の学生と数名の教職員が参加した。</li> <li>10月に富山高専射水キャンパスで行われた北陸地区国立高専間外国人留学生交流会に留学生6名と教員1名を派遣し、交流を図った。</li> <li>12月に本校への留学生と鯖江市国際交流協会会員ならびにチュータや指導教員を含む本校関係者との懇談会(総数約40名参加)を開催し、相互理解を深めた。</li> </ul>
4 管理運営に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長のリーダーシップのもと、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校における教育研究活動の一層の充実発展を図ることを目的として、毎年、校長裁量経費をプロジェクト計画経費等として配分するため教職員に対し各種プロジェクト等を募集しており、平成26年度については校長の厳正な審査の下、平成26年7月に計13件を採択し、有用な教育研究活動に資するよう配分した。また、昨年度配分については全教職員を対象とした報告会を7月と9月に実施した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理職研修会等に教員を派遣する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月に開催された機構主催「教員管理職研修」に校長補佐1名を派遣した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理業務の集約化やアウトソーシングの活用などを検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア支援教育に係る就職情報検索システム並びに3月に開催した本科3、4年生及び専攻科1年生を対象としたキャリア教育セミナー(合同企業説明会)の運営(参加企業149社)を全面外部委託し、効率的な運営を図った。</li> <li>797件の求人票の登録を外部業者へ依頼した。</li> <li>求人票登録業務の一環で、年3回の就職対策講座も上記外部業者に依頼した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>講演会・講習会などを行い、教職員のコンプライアンス意識涵養に努める。</li> <li>教職員間の意思疎通の機会を増やし、報告・連絡・相談(報連相)の体制を強化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営会議において、教職員間の意思疎通の機会を増やし、報告・連絡・相談(報連相)体制を強化するように校長から指示があった。</li> <li>6月、機構本部職員による、最近の会計検査院の動向、会計経理に関する不適切な処理事例等に関する講演会を開催(出席者数:教職員67名)し、教職員のコンプライアンス意識の向上を図るとともに、学内グループウェアに講演会資料を掲載して全教職員に対して周知を図った。</li> <li>10月開催の教員会議において、機構の「コンプライアンスマニュアル」を踏まえ、校長によるコンプライアンス遵守についての特別講演を開催した。</li> <li>3月開催の教員会議において、総務課長によるコンプライアンス講習会を開催した。また、年度末には事務職員及び技術職員に対して総務課課長補佐による同講習会を開催し、コンプライアンス意識の向上を図った。</li> <li>若手職員研修会を定期的に開催し、入試業務のリスク分析を行い、その結果を3月に若手職員研修会報告会(38名参加)で発表し、入試業務の課題を共有した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員を階層別研修に積極的に参加させ、コンプライアンス意識の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;教員&gt;</li> <li>8月に開催された機構主催「新任教員研修会」に6名が参加した。</li> <li>9月に開催された機構主催「クラス経営・生活指導研修」に2名が参加した。</li> <li>12月に開催された機構主催「教育評価研修」に1名が参加した。</li> <li>3月に開催された機構主催「教務主事研修」に参加した。</li> <li>&lt;事務職員等&gt;</li> <li>4月に開催された機構主催「新任課長研修会」に学生課長が参加した。</li> <li>6月に開催された機構主催「労務管理研修会」に管理職等5名が参加した。</li> <li>6月に開催された機構主催「新任部長研修会」に参加した。</li> <li>7月に開催された機構主催「新任係長研修会」に施設係長が参加した。</li> <li>9月に開催された東海・北陸地区高専係長級事務研修会に3名が参加した。</li> <li>11月に開催された北陸地区国立大学法人等新任係長研修会に入学試験係長が参加した。</li> <li>11月に開催された北陸地区国立大学法人等人事労務研修会に人事労務係長が参加した。</li> </ul>

	福井高専 平成26年度年度計画	福井高専 平成26年度実績報告
項	・高専相互会計内部監査を実施し、他高専と情報を共有して可能なものから改善する。また、学内定期監査も実施し不正経理を防止する。	・平成26年11月に開催された機構本部による、平成26年度における高専相互会計内部監査の監査項目の説明を主とした「監査研修会」に総務課関係職員が参加した。 ・平成26年12月から平成27年1月までの間に、総務課全職員による学内定期監査を実施し、不正経理の防止に努めた。 ・平成26年度高専相互会計内部監査として、平成27年1月に石川工業高等専門学校において監査を行い、また、1月には岐阜工業高等専門学校からの監査を受け、併せて両校と会計事務関係の情報交換を行った。
	平成24年3月の理事長通知「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策の徹底について」の実施を徹底し、不適正経理を防止する。	・全ての場合において教員発注を認めておらず、必ず総務課契約係に購入依頼書を提出するよう周知徹底している。また、納品検収は、総務課の納品検収所で行っており、直接教員室等へ持っていくことのないよう業者に指導した。なお、業者には誓約書の提出を依頼した。
	・他機関で実施している研修会に積極的に参加させ、事務職員・技術職員の一層の能力向上を図る。 ・職務に関して、高く評価できる職員に対して毎年度実施している校長表彰を、継続して実施する。	・東日本技術職員特別研修会、東海北陸地区、北陸地区の大学等を含めた6つの研修会に、事務職員延べ3名、技術職員延べ7名が参加した。 ・3月に校長表彰選考委員会を開催し、教員1名及び事務職員1名を校長に推薦し、年度末に全教職員の前で表彰式を行った。
	・近隣大学等との人事交流を引き続き積極的に行う。	・7月に福井大学との間で、一般職員及び係長の計5名の人事交流を行った。
	・校内LANシステムや高専統一の各種システム、及び前年度に導入した校内無線LANシステムに対して、情報セキュリティ実施規程及び前年度策定した情報セキュリティインシデント対応手順を基に十分な情報セキュリティ対策を講じて運用する。 ・情報セキュリティに対する意識を更に高める。	・情報セキュリティ実施規程及び情報セキュリティインシデント対応手順を基に十分な情報セキュリティ対策を講じて運用している。 ・高専機構によるe-Learningを用いた情報セキュリティ教育(りんりん姫)に受講対象者全員が受講した。
	・機構の第3期中期目標と中期計画に基づき、各年度の計画を策定する。	・機構の第3期中期目標と中期計画に基づき、本校の第3期中期計画を策定した。
Ⅱ 業務運営の効率化に めとするべき措置	・契約にあたっては、原則、仕様策定による一般競争契約とし、競争性及び透明性を高める。 ・複数年契約を可能なものから実施し業務の効率化を図る。	・一般競争契約については、物件3件、役務5件、工事1件、仕様策定等による一般競争入札を実施し、競争性及び透明性の向上を図った。 ・複数年契約については、本年度契約期間が満了する ①学生寮給食業務委託契約(公募型企画競争)、②教育用電子計算機システムのリース契約、③学生及び職員定期健康診断業務契約に関して、複数年契約を締結した。
Ⅲ 予算	・外部資金の獲得に積極的に取り組む。	・平成26年度の科学研究費補助金の採択件数は17件(新規:8件、継続:9件、総額:20,550千円)となった。過去4年間の傾向として採択件数は増加している。27年度科学研究費補助金の獲得に向けて、新採用の教員1名を日本学術振興会主催の科学研究費助成事業に関する研修会へ派遣した。また、平成26年9月に、機構主催の科研費取得のための遠隔ビデオ講演会(講演講師:富山高専袋布先生、奈良高専上田先生、明石高専仁木先生、熊本高専清田先生)を実施し、約40名の教員が受講した。さらに、学内向けウェブサイトに応募関連情報を掲載するなど科学研究補助金申請率向上に努めた。その結果、今年度の申請率(含技術職員)は昨年度の62%から71%に向上した。 ・12月にテクノセンター主催で開催するジョイントフォーラムで「農工連携」のテーマセッションを設け、今後の学内共同研究のきっかけ作りを行った。また、産学連携コーディネータの企画により、アカデミア会員企業との技術懇談会、産官学交流会、企業見学会を開催し、学科横断的な共同研究体制の構築を図った。 ・7月に地元企業関係者を対象としたオープンラボを開催し、本校所有の最新測定装置等の紹介冊子(高専ラボ・ガイド)を配布し、共同研究等の推進を図った。 ・本校が所有する研究設備を学外者に対し利用させ、地域及び企業等との連携を図るため、本校研究設備利用規則を制定し(平成27年2月4日規則第21号)、設備利用料を徴収することとした。 ・機構本部の定める技術相談に関するガイドラインに基づき、本校技術相談規則を制定し(平成27年3月5日規則第25号)、企業等からの技術的な問題解決を中心とした一時的な相談に対し、技術相談料を徴収することとした。
Ⅳ 金の 短期借入 の 限度額		
Ⅴ 又産 はを 担保 計画に しな 供、財		
Ⅵ 使 途 余 金 の		



		福井高専 平成26年度年度計画	福井高専 平成26年度実績報告
VII その他 主務省令で定める業務運営に関する事項	備1 に 関 施 す 設 る 及 計 び 画 設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパスマスタープランを策定する。</li> <li>・省エネ化対策方針に基づいて、夏季及び冬季時の空調機器の管理を徹底し、省エネを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季(毎年7月から9月までの間)においては、定期的に学内を巡回して、不要な照明設備・空調設備・トイレの便座等の電源を切るよう節電巡回パトロールを実施した。</li> <li>・電子情報工学科空調設備の改修工事に伴い、空調機器を省エネタイプ(52台)にすると共に、老朽化したボイラー設備を廃止し、冷暖房タイプに更新したことにより、暖房用ボイラーに係る経費を削減した。</li> <li>・キャンパスマスタープラン(第1次案)を作成し、2月のキャンパスマスタープラン専門部会で審議した。</li> </ul>
	2 人 事 に 関 する 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高専・両技科大間教員交流制度の活用により、教育研究活動の活性化と連携を深めるとともに、教育の改善と質の向上に努める。</li> <li>・管理職研修会等に教員を派遣する。</li> <li>・他機関で実施している研修会に積極的に参加させ、事務職員・技術職員の一層の能力向上を図る。</li> <li>・本校の高度化の基本方針に基づき、高度化移行時の教育体制等についての議論を継続して行う。</li> </ul>	<p>&lt;教員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高専・両技科大間教員交流制度において、富山高専及び石川高専に各1名を派遣した。</li> <li>・7月に開催された機構主催「教員管理職研修」に校長補佐1名を派遣した。</li> <li>・8月に開催された機構主催「新任教員研修会」に6名が参加した。</li> <li>・9月に開催された機構主催「クラス経営・生活指導研修」に2名が参加した。</li> <li>・12月に開催された機構主催「教育評価研修」に1名が参加した。</li> <li>・3月に開催された機構主催「教務主事研修」に参加した。</li> </ul> <p>&lt;事務職員等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に開催された機構主催「新任課長研修会」に学生課長が参加した。</li> <li>・6月に開催された機構主催「労務管理研修会」に管理職等5名が参加した。</li> <li>・6月に開催された機構主催「新任部長研修会」に参加した。</li> <li>・7月に開催された機構主催「新任係長研修会」に施設係長が参加した。</li> <li>・9月に開催された東海・北陸地区高専係長級事務研修会に3名が参加した。</li> <li>・11月に開催された北陸地区国立大学法人等新任係長研修会に入学試験係長が参加した。</li> <li>・11月に開催された北陸地区国立大学法人等人事労務研修会に人事労務係長が参加した。</li> </ul> <p>・平成28年度からの高度化移行に際しての教育体制等の議論を行っており、融合複合型の3コース制を第3学年次から導入することを始め、全学科共通で実施するPBL科目の名称やその学習教育目標等を決定した。教務委員会や各学科等において、各コースの具体的な教育内容等について議論を始めた。</p>